

会議記録（1）

会議名称	平成21年度 第5回北本市地域公共交通活性化協議会
開会及び閉会日時	平成21年12月25日（金） 午後14時00分から午後16時00分まで
開催場所	北本市文化センター 第3会議室
議長氏名	副市長 山島則義
出席委員職氏名	1号委員 山島則義 2号委員 梶原薫、長谷川洋司 3号委員 鶴岡洋(代理人出席)、中島茂男 4号委員 永渕元彦、高荷正春、堀越一三、川村洋二、渡辺浩幸、堀部雅澄 5号委員 池田豊(代理人出席) 6号委員 井上修 7号委員 吉野敏雄、久世高之
欠席委員職氏名	櫻井文夫
事務局職員職氏名	総合政策部長 谷澤暢 政策推進課長 吉野一 政策推進課 主幹 三橋浩範 株式会社 長大 早川裕史、澤部純浩
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 北本市デマンドバステスト運行利用状況報告(12月18日時点) (2) 市民アンケート調査結果に基づく移動実態分析について (3) デマンドバスの改善要望について (4) 平成22年度実証実験運行計画(案)について (5) 地域公共交通総合連携計画の骨子について 4 その他 5 閉 会
配布資料	○第5回北本市地域公共交通活性化協議会次第 ○北本市デマンドバステスト運行利用状況報告 ○市民アンケート調査結果に基づく移動実態分析 ○アンケート調査の結果に基づくデマンドバス改善要望 ○平成22年度 北本市デマンド交通 実証実験運行計画 ○地域公共交通総合連携計画について

発言者	発言内容・決定事項
事務局	1 開会
会長	2 あいさつ
長谷川委員	3 議題
	(1) 北本市デマンドバステスト運行利用状況報告(12月18日時点) 当日予約状況の不成立(資料P4)は何を意味するのか。
事務局	乗車を希望された時間に既に別の予約が入っており、予約を受け付けられなかった件数を指している。
川村委員	前日までの予約に対しても予約の不成立はあり得るのか。
事務局	当日予約以外にも他の利用者の予約の状況によっては、予約の不成立はあり得る。テスト運行期間全体での予約成立率は80%程度であった。
委員長	利用頻度分布(資料P3)で「20回」のところで数値が大きくなっているが、これは10回から20回までに利用した人が多いことを意味するのか。
事務局	その通りである。
委員長	1人あたり20回利用したと想定すると46人で約920回となり、延べ利用者数2,569人のうち、繰り返し利用されている方が多いことを示している。
委員長	(2) 市民アンケート調査結果に基づく移動実態分析について この分析は何を目的として行ったものか。
事務局	地域公共交通総合連携計画の策定に向け、北本市の現況把握の位置付けで、市民の移動の実態を把握することを目的としている。
高荷委員	市民アンケートの調査方法について再度説明をお願いしたい。
事務局	北本市民を対象とし地域ごとの人口構成に従って2,000世帯を無作為抽出し、調査票を配布した。回収数は707票であり、回収率は35.5%であった。なお、調査票は1枚につき最大4名まで回答できる形式としたため、サンプル数は1,734サンプルとなっている。

発言者	発言内容・決定事項
堀部委員	利用頻度が高い方、例えば66回の方などは、どのような移動に対して利用されているのか細かく分析してみてもどうか。同様に1回しか利用していない方についても分析してみてもどうか。
事務局	66回利用されている方は、毎日北本駅まで利用されており、おそらくは通勤で利用されている方である。現状は年齢までは確認していない。
堀部委員	<p>新しいシステムを導入しようとしている時には利用実態等を細かく分析してみる価値があると思う。特に10回～20回など繰り返し利用されている方の移動目的・目的地は非常に興味がある。</p> <p>利用回数を向上させるための方策として、ダイレクトメール等を使って利用方法等を周知することも有効と考えられる。</p> <p>(3) デマンドバスの改善要望について 事務局説明（質疑なし）</p> <p>(4) 平成22年度実証実験運行計画(案)について</p>
鶴岡委員 (代理出席者)	運行時間は8時30分から5時30分となっており、予約受付時間は8時から6時と異なっているのは何故か。
事務局	事業者との契約上の運行時間は8時から6時となっているが、予約の受付は8時30分到着から5時30分出発までを対象とし、前後30分は事業所からの往復を含む送迎時間としている。
川村委員	運行経費(資料P2)は車両1台分を指すものか、それともワゴン車と普通車の台数を合計した分を指すものか。
事務局	ワゴン車と普通車を合計した金額である。
久世委員	利用者数(資料P2)が異なるのは何故か。
事務局	車両台数が異なることで、同じ予約内容に対しても受け付けられる件数が異なるためである。
堀部委員	利用者数(資料P2)は1ヵ月の利用者数を指すものか。つまり、1ヵ月間に利用可能な最大利用者数がこの数値と言うことか。
事務局	その通りである。
堀部委員	普通車両での運行はタクシー事業と競合すると思われるがどう

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>か。また、大型車両の方が一度に運べる人数が多く効率的ではないのか。</p> <p>普通車両はタクシー事業者による運行を想定しており、タクシーメーターによる精算を行うことで効率的な運行が実現できると考えている。また、大型車との比較においては、一度に乗車される人数を考慮し普通車でも運行可能な場合もある。</p>
川村委員	<p>テスト運行期間中の乗合率はどの程度なのか。</p>
事務局	<p>今回のテスト運行では平均乗合率は1.2人/回であり、1回の移動における最大乗車人数は9人であった。</p>
川村委員	<p>資料P2のシミュレーションそれぞれの案で、平日の車両は同じであるが利用者数が異なるのは何故か。</p>
事務局	<p>テスト運行中のある1日の状況に当てはめてシミュレーションしているが、乱数を発生させて予約を取らせているため結果として微妙に数字が異なっている。</p>
鶴岡委員 (代理出席者)	<p>休日の利用者数として案1の90%よりも案2の60%の方が多くなっているのは計算間違いがあるのではないか。</p>
事務局	<p>再度シミュレーションの結果を確認する。</p>
委員長	<p>シミュレーションは(案)として、実行するときは再度事務局で検討するのか。</p>
事務局	<p>検討する。</p> <p>(案について全委員了解)</p>
堀越委員	<p>(5) 地域公共交通総合連携計画の骨子について 高齢化率の数値が平成18年度時点になっており、最新のデータに差し替える必要がある。</p>
事務局	<p>次回協議会で素案を提示する際に最新のデータに見直す。</p>
高荷委員	<p>高齢者の移動実態として、将来の独居老人や老老家庭の増加などを考慮し、どのような移動実態になるかをもう少し踏み込んで分析して欲しい。</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	アンケート調査結果等を基にさらに分析する。
堀部委員	課題3,4を掲げることは、大袈裟ではないか。特に課題4の低炭素社会への貢献については、アンケート調査結果でもわかるように現状は公共交通の利用状況はかなり低く、それほど大きな効果は期待できないのではないかと。まずは、当初目的である高齢者の移動手段の確保と、交通空白地域の解消だけでよいと思うが。
事務局	連携計画では、路線バス、タクシー等の公共交通に加え自家用車等を含む北本市における交通全般を対象としたものであり、公共交通に対する初期の目標である課題1,2に加え、課題3,4についても取り入れさせて頂きたい。
堀部委員	補助金の状況はどうなっているのか。
事務局	<p>本協議会の補助金も仕分けの対象になっており、地方移管されるとされている。今後の状況については注意深く見守っていきたい。</p> <p>(案について全委員了解)</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>次回の第6回協議会は1月13日の15:00から文化センター、次々回の第7回協議会は2月19日の14:00から北本駅の多目的ホールで開催させて頂きたい。</p>
堀越委員	ステップが高いという意見を聞いている。
事務局	<p>運転手の補助や踏み台を用意したりして対応している。</p> <p>5 閉会</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

平成22年 1 月20日 会長 山島則義